

参考資料

離婚訴訟における鑑定事例

1 父母別居事例(連れ去り)その1

			紛争中の監護状況	鑑定時点での子どもの性格・心理状態
事例1	10歳 小4 女	母方	父母再婚。嫁姑の葛藤、母の離婚、再々婚の意向に悩んだ子は、父の感情の押しつけ、しがみつきに反発し、次第に母に親和し始めていた。父母に身体的DVなし。 子は在日外国人の母と生活し、父と面会交流。 子が父母間の調整役として、問題解決を主導。	知的能力高く、家庭外の生活での達成経験を基に、将来目標(両国の懸け橋となる仕事をする)をもつことで困難状況を乗り越えようとしている。 感情、意思の言語化が自由に行われるが、唯一の家族となる母に対してやや過剰適応。
事例2	8歳 小3 男	母方	育児負担感の強い病弱の母が子を連れて実家へ。 同居中父は全く育児に手を貸さなかった。 別居後下校途中に自営の父の職場で勉強しながら過ごす面会交流が、嫁姑の大喧嘩で中止。対立場面を子は目撃。 母は、子を通信制小学校へ転校させ、自宅学習させていた。	父の提訴で交流再開。子の表情、明るくなった。
事例3	7歳 小1 女	父方	共働きの母が育児から逃げていると感じて、父は遅い帰宅の母を殴る蹴る、締め出す、職場に押し掛ける、母方祖父を殴る、包丁で死ぬと脅した。母はうつ状態に。子は父のDV目撃。 母は相談相手と不倫、父に告白して身の危険を感じ単身実家に。 父には、生母との絶縁、継母との不和のトラウマ。 「子の面倒をみない母親はいらない」と手作り弁当など入れ込んだ養育。	父への恐怖、従順。母からの見捨てられ感を我慢、わがままや泣き虫な面もあるが、活発に振る舞っている。 母のことを口にせず、外部の大人に人懐こく甘えん坊。
事例4	4歳 保育 男	父方	母のパニック障害をきっかけに、父方に引き取られ父の妹が養育。 その妹も結婚して2度の母性はく奪を経験。 仕事一筋の父は元気で聞き分けの良い子との認識。 母には買い物依存、異性関係あり。	保育園では保育士に甘えず、攻撃的な遊びを好む。 新しい課題への取り組みが消極的。 一人でビデオをみるなど手がかからない。 吃音あり、子どもらしい自由な自己表現ができない。

2 父母別居事例(連れ去り)その2

			紛争中の監護状況	鑑定時点での子どもの性格・心理状態
事例5	10歳 小5 男 8歳 小3 男	母方 母方	マンション購入後、昼夜働いていた母の心身に変調。 自律神経失調、脅迫的手洗い、頭痛、微熱かじができない。 母が子に当たり散らし、子らにも変調。 双方暴力(父は殴る、母は物を投げる、母が子に助けを求める)。 (長男は怯え、不登校、所持品の整理ができない、持続性欠如。 二男は、別居後就学。1年時気分易変、落ち着きがない、ぼんやりなど、 2年時少し積極的になり、学習を楽しみと感じ始める。) 母は単身別居も考えた。	(兄)別居後不登校解消し、落ち着きを取り戻した。 弟をかばい仲が良い。心理テストに「母を大切にしたい」。 通学途上、父に遭遇して父方への帰宅意思を問われ、 一旦同意したが、「でも、帰らない。母がいじめられるから」と翻意している。 (弟)3年時、兄をまねて学級委員長に立候補。 兄よりは父にも親和的。
事例6	5歳 幼 女	父方	育児下手の母に代わって育児するうち、子が父の方になった。 (宿便で子どもが泣いているのが分からず、職場の夫に電話、 3歳過ぎてもおむつがとれないなど) 子は気に入らないと父を殴る。父は母の虐待を疑った。 母は、些細なことに反応して頭ごなしに怒鳴る父のもとに戻ると 母乳が止まった。 母の母親は、貧農の嫁として働きづめの子だくさん、子にかかわれなかった。	母の養育性の欠如を父では代替し切れず、代替物の指しゃぶり、お人形との就寝で寂しさに耐えている。 父方祖母、鑑定人に明確な愛着を示すが、母には示さない。母子間の愛着形成不全の再生産の可能性。

3 別居後連れ去り事例(連れ戻し) その1

			紛争中の監護状況	鑑定時点での子どもの性格・心理状態
事例7	5歳 幼 男 4歳 保育 男 1歳 保育 女	父方 母方 母方	母が3児と実家に別居中、気の進まない長男を父方に帯同訪問中、父方祖父に連れ出され、長男だけ母子と離別。 父方祖父母に幼稚園に送迎され、帰宅途中の公園で遊ぶ以外は室内の一人遊び。 母の経済力に、父の一家が依存。父方祖父母は母を悪く言わない。	(兄)周囲の思惑、感情に敏感。消極順応の良い子で父方からの見捨てられ不安を防衛。 父方家族に内緒で弟妹に電話したり、いっしょに暮らせるまで待つよう諭して弟妹の保護者役。過熟。 母に対して見捨てられ感。 (弟)明るく活発で、自由に自己表現できる。
事例8	7歳 小1 女 5歳 幼 男	父方 父方	母に2度実家に連れ出されるが、3度目に父方へ戻された。 長女は、母から夫婦喧嘩の不満のはけ口にされていた。 訪ねてきた母に向かって「会うのはイヤだ」と言ってこいと、父方祖母が泣いている長女に言わせておいて、恐ろしいくらいの過熟ぶりだと言っけてのける。 父は、母の育児の怠慢、夜間外出、飲酒に不満あり。	(姉)はけ口にされた経験が鮮明で母への拒否感が強い。 「柱にしがみついても母の所へは行かない」と父方にしがみつく。PASの典型。 (弟)やや引っ込み思案だが、父らに甘えることができる。 母の印象が薄い。 子らに愛着形成の問題あり。
事例9	3歳 男	母方	生後半年頃から、父母双方で1週間交替の養育。 発熱、無表情、夜中に「ママいない」と叫ぶ、食べ物を投げる。 保健所の指導を受けて、母が実家へ子を引き取る。 父は後継ぎ、暴力も許される特別な存在として生育。 母への無視、殴る蹴るが激しく、母は恐怖心が先に立つ。	短気で感情の起伏が激しい。神経質で周囲へ気を使う。 知能の発達はいよい。 2歳前後から、争う両親におもちゃをあげてなだめ役。
事例10	9歳 小4 女 6歳 年長 女	母方 母方	夜尿、アトピーのある二女の育児をめぐって嫁姑間に軋轢。 核家族生活を試みたが改善せず、父が再度祖父母との同居を強行。 祖母の激怒にあった二女が精神不安定となり、母子で実家に別居。 父が公園に立ち現れ、夜半訪問して連れ戻しを試みるが失敗。	(姉)父方祖母に親和し、母へは甘えたり、本音を表現できない。母との距離感がある。学校適応は良好。 (妹)母に親和し、健康も回復。 子らは、父を拒否していない。
事例11	5歳 保育 男 3歳 保育 男	母方 母方	実家通いする母が子の入院で姑と対立、2児と実家へ戻り、父に連れ戻され、また、母に連れ出された。 母は連れ去りを警戒して戸外遊びの禁止、保育園休園。 「父方に連れていく」との脅しが躰の手段。母方祖母による知育偏重。 父は怒鳴ったり、手を挙げることはない。	(兄)父を拒否し、母への忠誠心強く、自己表現が乏しい。 (弟)父以上の子煩悩だった父方の亡祖父を慕っている。 兄弟が遊んだりかばい合うことが見られない。 PASあり。

4 別居後連れ去り事例(連れ戻し) その2

			紛争中の監護状況	鑑定時点での子どもの性格・心理状態
事例12	6歳 幼男 2歳 保育男	父方 母方	長男は、1歳時に母が実家へ連れ帰ったのを始まりに、2歳時には10日間隔で父母間をやり取りされた後父方祖父母と父が母を押さえつけて奪取。8日後、母が身内とともに父方の車に追突されながら取り返して親戚に身を隠す。半月後、母が実家に戻って、子が外遊び中に父と祖父がまた連れ去った。二男の出生で奪取合戦が終息。父方では、長男の連れ去りを警戒して、車で送迎し外に出さず、家政婦が父の会社屋上で遊び相手をする。父は二男の親権を主張せず。	(兄)指しゃぶり、父方祖母の乳しゃぶったりなどの退行。大人のような話し方は、次第に子どもらしくなっている。
事例13	3歳 保育男	父方	ネグレクト傾向の母が、婚家から出された後、通園途上で奪取。その後、園長の仲介で決めた週1回の母子面会が不履行。父方で、祖母による赤ちゃんことばの禁止、文字の特訓、行儀など年齢・発達不相应な早期教育の強要。	発達検診で言語発達の遅滞、自発性の乏しさ、過度の潔癖を指摘された。同居家族内、保育園で暴力顕著(人の顔を鷲掴み、たたくなど)。
事例14	7歳 小1女 5歳 保育男	父方 父方	長女が母の不倫を父に告げ父子で父の実家へ。母が長男だけ連れ戻し、父が取り返した。長女は母から虐待(包丁ちらつかせ、窓から逆さ釣り)。姉弟とも父母間のDV目撃。	(姉)父方祖母へのしがみつき。虐待とDVの目撃恐怖。母への拒否感と罪悪感のダブルバインド。過熟。 (弟)姉弟連合と父への親和で比較的安定。
事例15	7歳 小1女 4歳 保育女	母方 母方	治療静養に単親里帰りした母が、奪取を2度目に成功。両親を伴いだまして連れ出した。母から虐待(殴る、包丁突きつけ、首を絞める、躰を主張)姉妹ともに父母間のDV目撃。	(姉)被虐の恐怖、DV目撃恐怖、「私が良い子になるから」と虐待と不和への自罰感情。妹の保護者役、過熟。 (妹)姉妹連合と父への親和で比較的安定。

この一覧表は分析対象とした15事例の民事鑑定事例より、子どもの奪い合いにおける子どもの心理状態等を検討する資料として要約整理したものである。

出典「家庭内における女性の尊厳心外に関する実情調査」 社団法人家庭問題情報センター 2000. 3
財団法人女性のためのアジア平和国民基金よりの委託調査